

1 Ka-6

すくい縫いミシン縫製におけるすくい条件とシームの外観

○松梨 久仁子 島崎 恒藏

(日本女大)

目的 すくい縫いミシンは布地の表面にステッチがひびかないように綴じつけを行う特殊なミシンであるが、それだけに縫製にあたってはシームの外観的な品質が重要である。しかし、一方では綴じつけ強さといった性能も当然必要であり、すくい縫い縫製においては両者の兼ね合いが大きなポイントとなる。そこで本研究では、すくい縫いミシン縫目のシームの外観について官能検査の手法を用いて視覚的に評価し、すくい条件と対応させて検討することにした。

方法 試布は毛100%の平織布を用い、横方向に12cm幅で切り出し、裾上げを想定して4cm幅に折り上げて、そのへム部をすくい縫ミシン(トレジャー・BS-831型, ステッチ形式: 103)により縫製した。縫製条件は布上げダイヤルを3から8までの6段階、縫製張力は強と弱の2段階に設定した。得られたサンプルの裏側及び表側のすくい量を測定し、シームの外観評価は、検査員10名とし一対比較法による官能検査で行った。検査においては、ステッチが布の表側に露出していない、布つれやステッチ部にくぼみが生じていないなどといった点に注意して、シームの見目の良さについて-2点から+2点までの評点をつけてもらった。なお比較順序は考えず、往復比較は許すこととした。

結果 シームの外観は布上げが低いほど(すくい量が小さいほど)評価は高くなり、表側のすくい量がある一定量より大きくなると評価が悪くなった。また、縫製張力が高くなると評価は悪くなる。このようにシームの外観はすくい量と縫製張力の両面からの影響を考えなければならぬが、外観、性能ともに満足できる条件設定について、前報<sup>1)</sup>の結果も踏まえて検討した。

1) 松梨久仁子、島崎恒藏：日本繊維製品消費科学会年次大会研究発表要旨集 p.56-57(1999)